

ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN WEEKLY REPORT

2012-2013



名古屋名南ロータリークラブ

■承認 / 1991年3月8日 ■例会日 / 火曜日・PM6:30 ■例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル
■会長 / 宮崎 良一 ■幹事 / 坂本 晃 ■会報・雑誌・広報委員長 / 東山 直史
■事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル 2202号
TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinan-rotary.com

第1033回

2013年1月29日(火) 晴 第27回

～ ロータリー理解推進月間～

斉唱 我等の生業
出席 会員55名(出席率算入人数50名)
出席42名 出席率84.00%
前々回補填率91.84%(1月15日分)
ゲスト 自衛隊愛知地方協力本部
3等陸佐 白田 松男さん
企画調整係 住石 初見さん

会長あいさつ

会長 宮崎 良一さん

皆さま、こんばんは。本日は、自衛隊の白田3等陸佐と住石さんに来ていただきました。主として、防災に絡んだ危機管理のお話をさせていただきます。皆さまの会社でも常に危機管理をしていかなければならないということで参考になればと思います。



会社の危機管理という3つの方向でリスクを考えています。会社のリスクで大事なことは、災害時等のリスクです。これは、台風・地震・落雷・豪雪・停電・交通事故・運搬中の事故や労災も含めて、リスク管理をしていかなければならない。

さらに経営に関するリスクや政治・社会上のリスク、それぞれ細かく考えて社内でリスクをどのように回避するかということを考えていかなければならないと思っています。今日のお話で防災を起点とした危機管理、リスク管理のことを改めて考えていただければと思います。

幹事報告

幹事 坂本 晃さん

1. 次回の理事会は、2月5日午後5時から17階「パイン」で行います。
2. 海外出張届が2名出ています。細井俊男さんタイのバンコクに2月7日～2月14日まで。鈴木清詞さん中国に2月18日～2月25日までです。
3. 名古屋市博物館で4月24日～6月23日まで開催される「中国王朝の至宝」展示会の招待券があります。事務局にお問い合わせ下さい。

ニコボックス

- ◆ 本日は、自衛隊愛知地方協力本部白田松男さん、住石初見さんをお迎えしての例会です。卓話を楽しみにしております。よろしくお祈りします。

鈴木 清詞さん 中村 勝さん 佐々木元彦さん
森田敏二三さん 坂田 信子さん 有川 英敏さん
三浦 和人さん 中西 芳子さん 山本 誠一さん
安藤 修さん 榊原 和美さん 江村 雅夫さん
川村 繁生さん 大橋さなえさん 白銀 義昭さん
細井 俊男さん 新原 尚さん 児島 徳和さん
野々村憲吾さん 川辺 清次さん 川瀬 悟さん
加藤 英敏さん 宮崎 良一さん 伊藤 圭一さん
白藤 憲雄さん 坂本 晃さん 鈴木 享さん
浅井 浩さん 杉本 勇さん 三浦 隆さん
杉山 隆秀さん 久米 伸治さん 鈴井 一博さん
猪村 美之さん 大平 明子さん 犬飼りさ枝さん
武藤 正行さん

本日合計 48,000円 累計 483,700円

委員会報告

- ロータリー財団委員会 委員長 川村 繁生さん
ロータリー財団寄付マルチプルポールハリスフェローの方とベネファクターの認証者の表彰をさせていただきます。



ロータリー財団寄付認証者

- ・ベネファクター 宮崎 良一さん
- ・マルチプルポールハリスフェロー
山本 誠一さん 東山 直史さん
大橋さなえさん

外部卓話

■危機管理について

自衛隊愛知地方協力本部 3等陸佐
臼田 松男さん

皆さま、こんにちは。自衛隊愛知地方協力本部から参りました臼田と言います。地方協力本部とは、自衛官の募集を主体とした広報活動を行う組織で全国各都道府県にあります。愛知の本部は中川区松重町にあり、その他事務所が県内に12カ所あります。私は本部で企画の仕事をしております。本日はご縁がありまして、“大規模災害への企業のそなえ”というタイトルで30分程お話をさせていただきます。



まず、簡単に自己紹介をさせていただきます。臼田松男3等陸佐、昔で言います陸軍少佐です。昭和35年2月生まれで来月に53歳になります。筋肉年齢はまだ30代ですし血管年齢も30代前半ですので、気持ちは20代だと自分は思っています。岐阜県山県市（旧美山町）の出身で地元の高校を卒業後自衛隊に入りまして、守山・金沢を主体に勤務しまして4年程前に今の仕事についています。資格は、日本防災士機構の認定する防災士を取りました。

これまでに従事した災害派遣は、北陸で五六豪雪という大きな豪雪がありました。これを皮切りに、小さな山火事などたくさんありました。大きな災害では、阪神淡路大震災、ナホトカ号の重油流出事故、東海豪雨、平成18年6月にジャワ島中部で起きた地震に国際緊急援助隊の一員として、広報幹部ということで参加しております。

名古屋と私との関わりは、名古屋の勤務が長いことや妻の出身地であることなどがありますが、東海豪雨や名古屋祭りなどがあります。名古屋祭りの郷土英傑行列の鎧武者に扮しているのが、陸上自衛隊守山駐屯地の隊員です。毎年200名の隊員が2日間協力しております。これは昭和48年から始まり、これまで述べ20,000人近くの隊員が名古屋市のために協力しております。

ご存知のない方が多いようですが、あの配役は年功序列で決まる事が多いです。りっぱな鎧をつける役は上の方達で、若い隊員にはいい役は回ってこないです。ちなみに私もこれまで4回参加しております。私が新隊員で入った年は、鉄砲隊の足軽でした。それから少し階級が上がると鎧をつける役でした。その翌年には、お姫様の横で山車に乗る役になりました。そして、2000年には幹部自衛官になり、守山の中隊長をしておりました。その時には名古屋祭りの協力隊長で参加するよう言われました。ただ見ているだけではつまらないので、上司に許可をもらい、一般公募の秀吉に挑戦しました。書類審査で5名の秀吉候補が選ばれ、後日面接があるとの通

知が届きました。

その数日後に東海豪雨がこの地方を襲いました。私はその時、名古屋市役所に連絡幹部として派遣されていて、自衛隊の部隊運用を調整する業務に従事しておりました。その最中に面接を迎えたわけです。その面接の時に「今回の災害で一生懸命に名古屋市のために頑張りました。そのご褒美として秀吉をやらせて下さい。」と言いましたら、みごと当選し2日間だけ天下を取らせていただきました。

話は変わり、本日のメニューです。この地域の自衛隊、この地域を守っている第十師団のおもな災害派遣、そして東日本大震災における自衛隊の活動、災害への備えをお話します。

まず、この地域の自衛隊は、富山・石川・福井・愛知・岐阜・三重の東海北陸6県の陸地を守っているのが、陸上自衛隊の第十師団です。第十師団の司令部が、守山駐屯地にあります。この部隊は、愛知県内には守山・春日井・豊川、三重県の久居と明野、北陸は金沢にあります。十師団以外の部隊が、富山・岐阜にあります。航空自衛隊は、小牧・高蔵寺・岐阜・三重に基地があります。北陸は、小松が有名です。輪島にレーダー基地があります。海上自衛隊はこの地区にはありません。

では、この陸を守る第十師団がこれまでどのような災害に派遣されたかと言いますと、昭和34年9月に起きた伊勢湾台風、三八豪雪、五六豪雪、飛騨川のバス転落事故、濃尾地方を襲った濃尾集中豪雨、阪神淡路大震災、東海豪雨です。平成23年に入ってから、1月に大雪で福井県に自衛隊が派遣されました。2月には、三重県で鳥インフルエンザが発生したため三重の久居の自衛隊が派遣され、240,000羽の鶏を処理しました。

そして3月に東日本大震災が起こりました。では、東日本大震災で自衛隊がどのような活動をしたのか。震災が起きて69分後に津波が海岸を一気に襲いました。自衛隊はすぐに災害派遣にかかって、この地区名古屋をその日のうちに出発して次の日の朝には現地に入っております。まず初めに行うのが人命救助ですが人とか車が入れるような状態ではありませんでした。従ってまずヘリで被災者を宙吊りにして安全な場所に運ぶ活動を行いました。陸からはボートを使って人命救助を行いました。また、背負ったり抱えたりして被災者を安全な場所へ運びました。ペットも重要な家族の一員なので、丁重に扱いました。人命救助と並行して行方不明者の捜索をしましたが、これが一番大変な活動であります。沼のような中に人が沈んでいるかもしれないので、一列になって棒で探りながら人命救助をするあるいは捜索をします。また、ぬかるみの中も手探りで捜し、不幸にしてご遺体を発見した場合はその遺体を丁重に運びます。また、ご遺体の数が非常に多かったため、仮埋葬も行いました。そのため穴を掘るなどの協力もしました。それと並行して今度は民生の安定ということで、色々な生活支援に入っていきます。自衛隊は食べる事、寝る事、風呂、すべて自分たちで賄う能力を持っています。したがって、炊事班が、現地に展開して避難所の方に温かい食事を食べていただくという活動を行いました。隊員達も冷たい缶詰を食べながら、温かい食事を作って被災者に提供しました。名古屋の部隊が名古屋の味を届け

るということで、隊員から一人300円カンパし合っ
てきしめんを調達し、現地で被災されて方に食べて
いただくという、きしめん作戦という粋な活動もし
たと聞いております。

後は、物資の輸送です。航空自衛隊が空から、海
上自衛隊は海から、そして陸上自衛隊はトラックで
運んで現地の方に直接渡すという活動を行いました。
水タンクをもって安全な水を届けるという活動も
行いました。そして今度は、グラウンドにお風呂を
展開して被災した方に入っていただく活動をしまし
ました。一時でも笑顔になっていただける非常にいい
活動だったと思います。第十師団の中には、音楽隊
があります。音楽隊が被災地に行って、励ます曲や
辛さを忘れる曲を演奏して被災した方に喜んでい
ただいたと聞いております。

後はエアドーム式のテントを建てて診療所を開始
しました。被災でまたは生活苦で病気になった方や
怪我をされた方の治療を行いました。隊員たちは毎
日、拠点から現地に往復しましたが、その時に一番
有難かったのは現地の方の声援です。たくさんの声
援をいただいたので、隊員達の士気が一番高揚しま
した。その活動の内容の中で特に注目していただき
たいのが、人命救助です。全部で26,666名の方が救
助されて、そのうち19,286名を自衛隊が救助して
おります。全体の72%を救助しております。自衛隊の
派遣がなかったら、この72%の方はすぐに救助され
なかったということです。やはり地元を愛する多くの
若者に自衛隊を志願していただきたいと思いま
す。

次に普段の備えということで、いろいろな災害に
対してどのような備えをすればいいのかというお話
をします。阪神淡路大震災発生直後は、本当に戦後
の焼け野原のようになっています。高速道路も見事
に倒れています。火災も起こっています。東日本
大震災では、津波で多くの方が亡くなりました。阪
神淡路大震災の場合は、8割以上の方が倒壊して
きた家屋の下敷きになって亡くなりました。津波が
きた時には高い所に走って逃げるのが鉄則です。し
かしながら、津波のみに囚われてはいけません。そ
の前に発生する揺れからまずは生き残らなければ
なりません。まずはこの揺れから身を守らなければ
なりません。そのためには当然家具の固定も大事
です。

自分が被災者となつての備えは、まず3×3とい
う数字を覚えておいて下さい。これは、3食を3日分、
3リットルを3日分という意味です。これは最小限常
備しておく必要があると思います。これはいざとい
う時のために直ちに持って行ける量で、これが一週
間以上あると更にいいと思います。

この前、ある教授のお話を聞いた時に、もし東京
で直下型の地震が起きたら餓死者が出るというお
話でした。高層ビルがたくさん立ち並ぶ場所で直下
型の地震が起きたら、当然陸からは近寄れません。
ヘリで救助活動を行います。ビルの上にいる方は
すぐに助けることが出来ますが、多くの方はビル
の中に取り残されているので、救助の手が及ばない。
また、順番に救助活動をするので、何日も後にな
ってしまうのです。そのため、食べ物が無くなって
亡くなってしまふということが考えられるのです。次
に一人あたりの避難所のスペースは、約畳一畳ぐら

いです。そのためそこで生活できる分しか持ち込め
ないということ覚えておいて下さい。

次に、三種の神器というものがあります。これ
は、バール・のこぎり・ジャッキです。これは阪神淡
路大震災の時に初期活動で救助するときが一番役
に立った道具です。バールは物をどけたり、起こし
たり、くぎを抜いたりするのに必要です。木を切る
には、のこぎりが必要です。物を持ち上げるには、
ジャッキが必要です。これが非常に役に立ったとい
うことで、私は今町内会長をしておりますが、24年
度予算でこの3つを買い揃えました。

次に地震発生初期段階3日間における、自助・共助
・公助です。自助は、自分です。家族ですという
ことです。共助は、隣・近所・町内会など仲間内
ですということです。公助は、公の助け、消防・
警察・自衛隊などの助けです。これがどれだけ機能
したかの割合が、7:2:1です。従って、災害が起
こったらすぐに自衛隊が助けに来てくれるというの
は大きな誤りです。自衛隊はすぐには動きません。
全般を見て被害の大きい所から順番に行きます。共
助もなかなか難しいです。しかし、これはどんどん
伸ばさなくてははいけません。とにかく、自助が非常
に大事です。まず基本は、自分の身は自分で守る。
そして次に自分達の町は自分たちで守る。といった
ことが鉄則になると思います。

そして、防災教育というのを各地で行われると思
いますけど、この防災教育というのは理系と文系の
両面でやるというのが必要である。例えば、地震が
どうして起こるのか。縦揺れがきて、横揺れがく
る。活断層はどうか。マグニチュードはどういう定
義か。というのが、理系の話です。災害が起こった
らどのような行動をとるのか。過去にどのような災
害があったのか。どのような被災があったのか。そ
の教訓はなにか。どのような言い伝えがあるのか。
ということが文系の話です。両面で教育していくこ
とが必要です。

津波の記念碑が東北にはいっぱいあります。これ
より下に家を建てるなど石碑があるのに家を建て
てしまう。「稲村の火」という言葉があります。江戸
時代後期に和歌山県の庄屋さんが高台の上から地震
の後に波が引くのが見えた。これは津波がくるの
ではないかと自分の家の周りに火をつけて燃やすと、
火事だと思って村人が上がってきました。その後
津波が来ました。それで助かりましたという物語で
実話です。尋常小学校5年生の教科書に書いてあ
ったが、戦後そういう教育がされなくなり語り継
がれなかった。しかし、これは今復活しているそう
です。百人一首で清原元輔という清少納言の父親が
読んだ一首があります。「契りきな かたみに袖を
しぼりつつ 末の松山 浪越さじとは」私達の愛は
末の松山に波がこないように、破局というのは絶対
にありませんよという歌だそうです。末の松山とい
うのは、宮城県の都城にある地域の名前です。800
年代に地震があった時に大きな津波がありました。
しかし、末の松山だけは波をかぶらなかつた。こ
こに波がくるということはありません。ということで
歌が残っているわけです。従って、この前の東日本
大震災に末の松山に上って助かった方は多数いま
す。ここに残っているといったところが大事で、伝
承するということが大切です。インドネシアは2004

年にインド洋の地震があり、大きな津波がスマトラ島を襲いました。

230,000人の方が亡くなっています。アチェという州では、160,000人ぐらいの方が亡くなっています。アチェの中のシムルー島という小さな島がありますが、そこには9mの津波がきました。800,000人の人口の中でこの津波で亡くなったのは8人です。この島には2007年にも津波がきましたが、『2007年に津波がきた、高い所に逃げなさい』という歌があります。それが子守歌や農作業の時にこの島の人すべてが歌っています。それで津波がきたら高い所に逃げることをわかっているのに8名しか犠牲が出なかったという実例があります。従いまして、このような歴史の伝承というのは地域に住む大人の責任ということで、大人がしっかりと勉強をしてこれを伝える必要があると思います。

次に、危機管理と私の教訓ということで、まず全国に伝えたいことは隣組の大切さです。私がこれから申しますのは、先ほど言いました自助・共助・公助の中の共助です。有事の際の対応は、全員が一致団結しなければ国・県・市町村そして町内あるいは隣・近所です。阪神淡路大震災で自衛隊が人命救助をしました。家屋がたくさん倒壊しています。その時に町内会の組織・隣・近所がしっかりお付き合いをしているかどうかで雲泥の差が出てきます。平素からの連携、個人主義に陥りやすい昨今ですが、近所づきあいというのは非常に大切だと思います。私事ですが、十数年前に今の町内に引っ越してから町内清掃が年に2回あります。その後に町内の同じ組の方とご苦労さん会をしたり、7件の家族のグループと一緒にカラオケをしたりと交流をしています。今年は町内会長をさせていただきましたが、防災交流子供会やお年寄りの会、新年には全員を対象とした新年会を行いました。そのような昔田舎で育った人達がやってきたような交流というのが理想でそのような町内を目指して頑張っています。

最後に大規模災害の企業への備えということでお話をしたいと思います。まず、天災やいろいろな災害に備えて、企業として必ずやらなければならない事、備えた後には更に喜ばれる事は何かということを考えて準備を行っていただきたいと思います。

中部電力と名鉄が防災の協定を結んでいます。実は、数年前に私は中部電力の小牧営業所で防災危機管理構話というものをさせていただきました。その時の質問で、小牧営業所が管轄する犬山地区は松林や雑木林が多くて、強い風が吹いたりすると木が倒れて電線を切断してしまうため、復旧するにはどうしたらよいかという質問でした。まずは、現場に近くて、十分なスペースの駐車場があり、建屋があることだと説明しました。家に帰って犬山周辺の地図を見てみると、松林や雑木林の近くにモンキーパークやリトルワールド、明治村がありました。このような場所が前進基地にいいのではないかと提案させていただきました。この提案をさせていただきました利点は、十分な土地スペースがあり、広い駐車場があるためヘリの離発着も可能です。また建屋があり、大小部屋があり備品もあります。そして柵に囲まれていて保全上有利である。また、周囲に民家がなくて苦情等も少ないと思います。また災害時は休館しており、たぶん一般の人は入ってこないと思

ます。そして誰でもわかる著名な施設ですから、応援部隊を呼ぶときに便利です。これは非常にいいと思い、中部電力に打診して、この施設を管理する名鉄と防災協定を結んだらどうかという提案をしました。

これらの施設を選定したもう一つの意義は、地域の二大企業だということです。この地域の二大企業が提携することにより、地域住民の信頼を獲得するすなわち今や災害対策というのは国民の関心事でありますので、地域事業の防災の提携は、地域住民を第一に考えた証左になるのではないかと非常にいい広報効果があると提案させていただきました。そしてその後、中部電力と名鉄は防災協定を結びました。大規模災害に備えて企業はやるべき事の他に来ることを考えて備える時代だと思います。普段ビジネスのお話は頻繁に行われていると思いますが、この他に防災の話が活発に行われるようになれば、災害に強い街づくりが出来るのではないかと思います。

このような脳波を持った自衛官は、若年定年制のため50代半ばで定年を迎えます。皆さま方も本日パンフレットがあると思いますが、再就職のための雇用企業も募集しておりますので、是非一読いただきたいと思います。若い隊員が一生懸命頑張っております。「我らここに励むとき、国安らかなり」強い責任感と使命感を持って体力精神を鍛え、規律ある行動をとり、鍛えることにより国民は安心して生活が出来るのだという使命感を持って頑張っています。このように災害で困った方も我々が手を差し伸べることによって、笑顔にすることが出来ます。しかしながら、我々にとっては、国民の皆さま方の応援が何よりの支えでございます。今後とも、自衛隊を宜しく願います。ご清聴ありがとうございます。

第 1035 回例会 (2月14日) のご案内

4RC 合同例会 ヒルトン名古屋 5F 「扇の間」

18:00 ~ 20:00